

令和6年度 文化庁著作権講習会

令和6年7月31日

# デジタル・ シティズンシップ教育を 取り入れた著作権教育の実践

---

東京都北区教育委員会学び未来課

野間 俊彦





# 野間 俊彦（自称：著作権伝道師）

<現在>

東京都北区教育委員会学び未来課  
教育情報化推進員



<これまで>

中学校美術教諭、小学校図工専科、小学校副校長、  
校長を経て現職

1996年(28年前)から情報モラル指導を始め、1998年(26年前)から著作権教育を始める。文科省、文化庁、警察庁、東京都等の情報モラル関係委員を歴任



## この講義での提案

情報モラル教育に、デジタル・シティズンシップ教育の考え方を取り入れて、**アップデート**することから始めてみませんか？



## 講義の内容

1. 情報モラル教育とDC教育の違い
2. 情報モラル指導にDC教育の考え方を取り入れる方法
3. 著作権教育の具体的な実践例を説明しながらDC教育のポイントを解説



# 情報モラル教育と デジタル・シティズン シップ教育の違い



# デジタルシティズンシップとは

デジタル社会の中で、積極的に情報を活用し、他者とかかわりながら、責任をもって行動すること



## DC教育って何？

# デジタルシティズンシップを 学ぶ教育

- 1990年代始めに米国で誕生
- 内容は日本の情報モラル教育と近かった→効果が少ない→改善



# 情報モラル教育とDC教育の関係

1. 相反するものではない
2. どちらかを選ぶものでもない
3. 情報モラル教育の豊富なコンテンツも利用できるものが多い





## 情報モラル教育の課題

1. 危険や依存からの回避が多い
  - ・ ネガティブに捉えてしまう
2. 他人事として考えてしまうことが多い
  - ・ 行動につながりにくい
3. ひとつの考えに収束することが多い
  - ・ 「○○に気をつけたい」という感想



## DC教育では…

1. 危険は情報モラル同様に教える
  - ・ 活用するためにどうするか、ポジティブに考える
2. 自分ごととして考えさせる仕掛け
  - ・ 対応のデメリットも考えさせて行動につなげる
3. 多様性を尊重する
  - ・ 多様な意見により思考が深まり、多様な感想が見られる



# 情報モラル指導に DC教育の考え方を 取り入れる方法



## DC教育の学習内容（一部）

1. メディアバランス
2. メディアリテラシー（著作権含む）
3. デジタル足あと
4. セキュリティ
5. コミュニケーション
6. ネットいじめ など



# 取り入れたいDC教育授業の流れ

1. 用語の定義を共有
2. 学習課題を実施
3. 立ち止まる（冷静に問題に向かう）
4. 考える（原因と対応を考える）
5. 対応のデメリットと解決策を議論
6. 学びを保護者と共有

**それでは、著作権学習の事例解説を通して、ポイントを考えていきましょう！**





# 著作権教育の実践例を 説明しながら DC教育のポイントを解説